

今年度からB型・C型肝炎ウイルス検査を実施します

現在、肝炎ウイルスには、国内で100万～200万人が感染していると考えられています。実際に感染していてもほとんど自覚症状がないため、感染していることに気づかないのが現状です。放置しておくと20～30年かけて肝硬変や肝臓がんを引き起こす可能性があるといわれています。

肝炎ウイルスは日常生活の場で感染することはほとんどないといわれ、検査は一度受ければよいとされています。

今回の検査は、ウイルスが現在、体の中に「いる可能性が極めて高い」か「いない可能性が極めて高い」かを判定するためのものです。

この機会に肝炎ウイルス検査をぜひ受診してください。

■対象者

- ①平成14年度（来年3月31日までに）40、45、50、55、60、65、70歳になられる方
 - ②過去に肝機能の異常を指摘されたことのある方
 - ③開胸、開腹手術など広範な外科的手術を受けた方や、妊娠、分娩時に多量に出血したことのある方で、定期的に肝機能検査を受けていない方
- ※ただし、過去に当該ウイルス検査を受けたことのある方は対象となりません。

■実施方法

総合検診（8月19日～9月10日）とあわせて、問診と採血により行います。検査結果は、約一か月後に、本人あてに通知いたします。（基本健康診査の結果でGPT値が要指導となった方には、二次検査の案内を差し上げます。）

■検査料金

自己負担額は40～69歳 500円
70歳以上 無料

※基本健康診査、前立腺がん検診とは別に必要となりますので、ご注意ください。

肝炎ウイルスの主な感染経路

- ・ウイルス感染した血液の輸血
- ・注射針や注射器の共用
- ・器具を消毒しないでピアスや入れ墨をする

このような行為では感染しません

- ・握手 ・抱き合う
- ・食器を共用
- ・キス（唾液では感染しません）
- ・一緒に入浴
- ・隣に座る



●問い合わせ 健康推進課 ☎22-1362